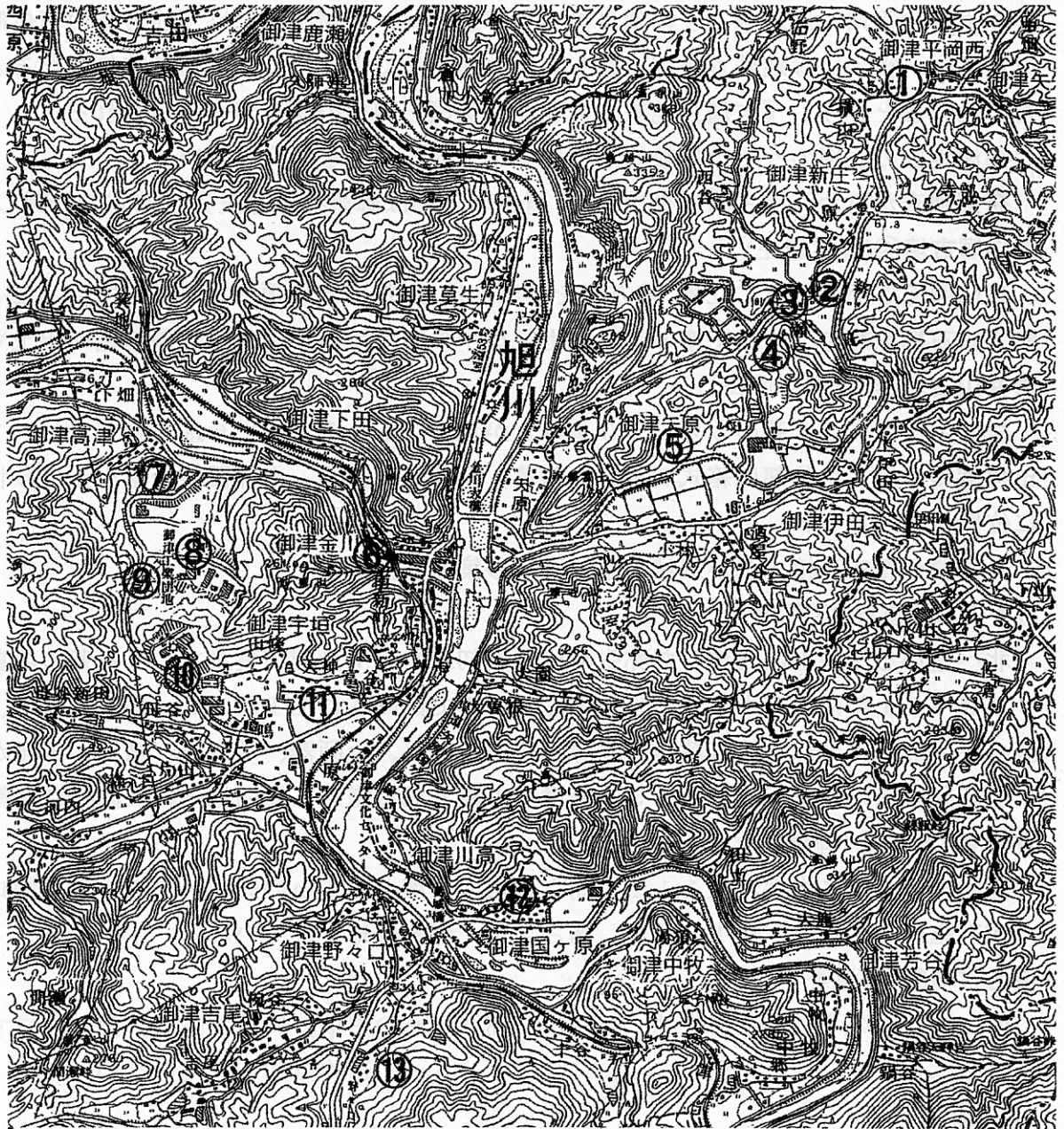


御津地域の古墳時代

長谷川一英

【遺跡の位置】



S=1/50,000 数字は本文中の数字と対応

【遺跡の概要】

岡山市北区御津地区は岡山市北部に位置する。地区のほぼ中央を旭川が南流し、河川沿いに平地が形成されている。遺跡はそれらの上に立地している。さらに遺跡に臨む丘陵上に古

墳が築かれている。地区内には95基の古墳が存在し、うち29基は消滅している。これらを見ると、弥生時代後期には特殊壺・器台が出土したみその遺跡⑧、西奥遺跡⑩、特殊壺・器台に類似した土器が出土した平岡西遺跡①が営まれ、古墳時代になると前方後円墳の天神鼻1号墳(21m)③、八つ塚古墳(33m)④、前方後方墳の菅2号墳(44m)⑦が、後期になると横穴式石室を持つ小古墳が築かれ、飛鳥時代になると原遺跡⑪でこの時期の瓦が出土していることから、寺院が造営されていたようである。

弥生時代後期には地域ごとに独自の墳墓が造られ、古墳時代には『前方後円墳体制』に組み込まれ、後半には地域首長が台頭し、小古墳を築くようになり、飛鳥時代になると寺院造営が始まるという、『吉備』地域、大きくは倭国と同様の歴史がうかがわれる。

御津地区の古墳のうち、比較的手軽に見学できるものを紹介していく。

発掘調査が行われた古墳は少ないが、遺物の一部は御津郷土歴史資料館⑥で公開している。

八つ塚古墳④(御津新庄)

東に開く谷部の最奥に立地。前方部を西に向ける。後円部墳頂部が陥没していることから、竪穴式石槨を想定。道路工事の際に5世紀後半の円筒埴輪を採集。形象埴輪の出土も報告。

岩井山古墳群⑤(御津伊田)

岩井山麓の21基のうち、10基ほどが現存。1975年に6基が調査され、1辺10m程度の方墳、主体部は箱式石棺と土壙墓。副葬品は鉄器、土師器が少量出土。5世紀前半に位置付けられる。

4号墳の箱式石棺1基が五城小学校②に移築保存。

みそのお墳墓群⑧(御津菅)

北へ延びる尾根上に立地した弥生時代後期初頭から7世紀中葉までの50基の墳墓群。1989～91年に調査され、墳丘の多くは列石で区画された1辺10m程度の方墳、411基の主体部の大半は木棺直葬墓。副葬品は少ないが、土師器、須恵器、鉄器、玉類が出土。

15号墳墓の箱式石棺3基と50号墳墓の横穴式石室が工業団地内の公園⑨に移築保存。

香雲寺1号墳⑫(御津国ヶ原)

南向きの山裾に立地。径11m、高さ3mの円墳。幅1mの周溝が巡る。南に開口する横穴式石室は長さ7m、幅1.5m、高さ2m。遺物は知られていない。

虫名古墳⑬(御津野々口)

西に開く谷の北側斜面に立地。径9m、高さ2mの円墳。周溝が巡る。南に開口する横穴式石室は長さ6.5m、幅1.4m、高さ1.5m。遺物は知られていない。

【文献】

岡山県古代吉備文化財センター 2003年『改訂 岡山県遺跡地図 第6分冊 岡山地区』岡山県教育委員会

【交通】

御津郷土歴史資料館⑥ JR津山線「金川駅下車」徒歩10分